

19 大基評第 86 号

2019 (令和元) 年 5 月 9 日

中 京 大 学

学 長 安 村 仁 志 殿

公益財団法人 大学基準協会

会 長 永 田 恭 介



「改善報告書」の検討結果について (通知)

拝啓 青葉の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本協会の事業推進のため、種々ご協力を賜り、深謝申し上げます。

標記に関し、昨年度、貴大学からご提出いただきました「改善報告書」につきまして、大学評価委員会において慎重に審議を行い、別紙のとおり検討結果をとりまとめましたので、ここに通知申し上げます。

敬 具

【同封資料】

「改善報告書検討結果 (中京大学)」

以 上

〈 改善報告書検討結果（中京大学） 〉

[1] 概評

2014（平成26）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学に対して、努力課題として7項目の改善報告を求めた。これを受けて、貴大学では、「自己点検・評価委員会」を中心に検討を行い、各学部・研究科において改善活動に取り組んでいる。今回提出された改善報告書からは、貴大学が、これらの努力課題を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んできたことが確認できた。

ただし、努力課題として指摘した、以下の事項に関して、引き続き一層の努力が望まれる。

第一に、教育課程の編成・実施方針（努力課題No.1）については、経営学研究科の博士前期課程では教育方法に関する考え方が示されていない。また、博士後期課程では教育内容、教育方法などに関する考え方が記されておらず、教育課程の編成・実施方針とみなすことはできないため、改善が望まれる。

第二に、博士後期課程の教育課程・教育内容（努力課題No.2）については、経済学研究科経済学専攻では「経済学専攻将来構想委員会」で近隣大学院のカリキュラムを調査し、コースワーク科目の導入を検討しているが、カリキュラム改正には至っておらず、経営学研究科では「経営学研究科自己点検・評価委員会」で検討し、コースワーク科目の導入を検討しているが、カリキュラム改正には至っていないので、引き続き改善が望まれる。

第三に、研究指導計画の学生への明示（努力課題No.3）については、文学研究科の博士後期課程では指導項目と内容・目的等が示されているのみでその時期や時系列が不明であるため、研究指導計画とは言い難いので、引き続き改善が望まれる。

第四に、学生の受け入れ（努力課題No.5）については、研究科における収容定員に対する在籍学生数比率が、博士前期課程において、文学研究科で0.38、国際英語学研究科で0.06、心理学研究科で0.40、法学研究科で0.15、経営学研究科で0.35と低く、社会学研究科には在籍者がいない。また、博士後期課程においては、心理学研究科で0.13、法学研究科で0.22、経済学研究科で0.08と低く、文学研究科には在籍者がいないので改善が求められる。

以上の事項について、引き続き検討を重ね、より一層の改善に尽力し、貴大学が、その目的の実現のために、不断の改善・改革に取り組むことを期待したい。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし